

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第87号

2019年10月3日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 30 周年記念国際大会と第 10 期理事会を終えて

代表理事 鎌田真弓

去る 6 月 15 日 (土)・16 日 (日) の 2 日間にわたり、オーストラリア学会 30 周年記念国際大会が青山学院大学で開催されました。上智大学での 25 周年記念大会に続く二度目の国際大会で、トランスナショナルなオーストラリア研究の可能性を感じた大会となりました。国際大会企画委員の皆さま、大会実行委員長の飯笹佐代子会員、大会運営を支えてくださったスタッフの皆さまに心よりお礼申し上げます。また、豪日交流基金からは多大な助成をいただき、青山学院大学総合政策学会からもご支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。

開会式では、青山学院大学学長三木義一先生、オーストラリア大使館首席公使代理グレッグ・ラルフ様、中国オーストラリア学会副会長チェン・ホン華東師範大学教授にご挨拶をいただきました。メラニー・オッペンハイマー東京大学客員教授による特別講演は、個人の戦争体験の記録と公的記憶に関する明晰な分析とともに、聴衆を聞き入らせる力を持った講演でした。

本大会は 110 名を超える参加者があり、大会テーマ「The Forefront of Australian Studies: Interaction and Diversity」に相応しい研究発表が数多くありました。個々の優れた発表内容は本学会ウェブページ上の予稿集や講演録に譲り、ここでは本大会の三つの特筆すべき成果について述べたいと思います。

第一に、本学会と中国オーストラリア学会との連携を強めたことです。中国からは大学院生を含む 14 名の参加者がありました。学会企画パネルでは、豪・日・中の研究者が、オーストラリアとアジアの相互作用を、歴史、教育、安全保障の観点から論じました。中国豪学会との橋渡し役となり、パネルにご登壇くださったデイヴィッド・ウォーカー教授に感謝申し上げます。

第二に、アートに着目してオーストラリアの多文化社会を考察したことです。森美術館の副館長で 2018 年シドニー・ビエンナーレ芸術監督を務められた片岡真実氏の特別講演に続いて、オーストラリア大使館の徳仁美氏、湊圭史会員、飯笹佐代子会員によってオーストラリアの文化創造の最前線の様態が紹介されました。青山学院大学総合政策学部のシドニー文化研修を紹介された三浦万奈さん、同学部生によるオーストラリア映画の字幕制作への挑戦について報告された高木千香子さんの堂々とした発表にも感服いたしました。なお、この報告に続いて映画の上映会も行われました。

第三に、対談や Work in Progress Session など、新たな研究報告の形を取り入れて、第一線の研究者とともに、実務家や大学院生、学部学生の報告など幅広い層の研究報告がありました。特に若手研究者の活躍が目立ったことは嬉しい成果でした。また、第 3 回優秀論文賞の授賞式も行われました。本大会での研究報告と議論の成果は、学会誌第 33 号への投稿論文として発表されることを期待しています。

最後になりましたが、本大会をもって、第 10 期理事会は任期を終了いたしました。学会運営を献身的に、かつ素晴らしいチームワークで支えてくださった理事・監事の皆様に心よりお礼を申し上げます。

2. 第 11 期代表理事ご挨拶

代表理事 鎌田真弓

6 月 16 日に開催された総会で第 11 期理事会が承認され、引き続き代表理事を拝命いたしました。第 11 期理事会は、10 名が第 10 期理事会より継続、7 名の新任理事 (うち 3 名が理事経験者)、2 名の新任監事とともに本学会の運営をして参ります。創立 30 周年を迎えた本学会の伝統を継承しつつ、以下の 3 つの目標を掲げて、さらなる発展を目指して尽力したいと存じます。

第一に、研究大会や学会誌を通じて、「オーストラリア研究」の分野での国際的な学術交流の場を拡充し、会員の研究成果を世界に発信できるようにしていきたいと思います。先の国際大会では、学会の国際化の重要性

を痛感いたしました。第二に、学際的な研究活動の場という創立以来の精神を大切に、幅広い年齢の研究者や学生が活躍できる機会を増やしたいと思います。第三に、研究者以外との繋がりを創り出すためにも、ウェブページやフェイスブックなど電子媒体を活用して、オーストラリアに関する情報共有の場を充実させたいと考えます。

本学会では、会員の研究活動を支援するため、関西と関東での地域研究会の開催、優秀論文賞、海外学術大会参加助成制度など、様々な取り組みをしています。会員の皆さまにおかれましては、ぜひ積極的に参加・応募いただくとともに、新たな事業や企画に関するアイデアを理事会にお寄せください。第11期理事会は、歴代の理事会の熱意を継承し、魅力的な学会活動を支えるために努力する所存でございますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

3. 総会報告

日 時：2019年6月16日（日） 14:30～15:00

場 所：青山学院大学 17号館 5階 17511 教室

以下の議題が審議され、承認された。

1. 代表理事挨拶
2. 2018年度一般会務報告
花井理事（総務）および佐和田理事（企画）より2018年度一般会務報告があった。
3. 2018年度編集業務報告
加藤理事より2018年度編集業務及び第3回優秀論文賞の報告があった。
4. AJF 関連事業
佐和田理事よりAJF 関連事業について報告があり、了承された。
5. 2019/2020年度活動計画
佐和田理事より2019/2020年度活動計画報告（下記①②）があり、了承された。
①2020年度全国研究大会は北九州市立大学で開催
②地域研究会
6. 2021年度全国大会開催校募集
佐和田理事より2021年度全国大会開催校募集について報告があった。
7. 2018年度決算・監査報告
石井理事より2018年度決算の説明があり、多田監事より監査報告があり、承認された。
8. 学会費郵便払い込み手数料の会員負担に関して
石井理事より学会費郵便払い込み手数料の会員負担に関する提案がなされ、了承された。
9. 2019年度予算案
石井理事より2019年度予算案の説明があり、承認された。
10. 第11期理事・監事の選出
鎌田理事より第11期理事・監事案が提案され、候補者全員が了承された。代表理事の互選のため第11期選出理事・監事が中座し、再開総会にて、第11期代表理事として鎌田真弓新代表理事が選出されたことが報告された。

4. 第10期第7回理事会報告

日 時：2019年6月14日（金） 18:00～20:00

場 所：青山学院大学総研ビル 14号館 8階 第11会議室

出席者：藤田智子、花井清人、石井由香、鎌田真弓、加藤めぐみ、馬淵仁、南出眞助、佐和田敬司、友永雄吾、
堤 純、山内由理子（以上、理事、ABC順）、白江英司、多田稔（以上、監事）

委任状：6通

【報告】

1. 花井理事より 2018 年度総務事業報告があった。
2. 佐和田理事より 2018 年度企画事業報告があった。
3. 加藤理事より 2018 年度編集事業報告があった。
4. 石井理事より 2018 年度会計事業報告があった。
5. 佐和田理事より総会での 2021 年度全国大会開催校募集が報告された。
6. 佐和田理事より 2018 年度 A_JF 助成金の完了、2019 年度の A_JF 助成金の執行状況、2020 年度の申請状況に関し報告があった。
7. 花井理事より学会関連文書に関し報告があった。
8. 鎌田理事より退任する理事へのお礼の言葉があった。

【議題】

1. 石井理事より 2018 年度決算案に関し報告があり、了承された。
2. 石井理事より 2019 年度予算案に関し報告があり、了承された。
3. 石井理事より学会費郵便払い込み手数料の会員負担に関する提案がなされ、了承された。
4. 加藤理事より優秀論文賞の選考結果について説明があり、優秀論文賞は松井洋和会員に授与されることが承認された。
5. 鎌田理事より 2019 年度の優秀論文賞の賞状と記念品の変更にし提案があり、了承された。
6. 佐和田理事より 2019 年度事業計画について報告があり、了承された。
7. 佐和田理事より 2020 年度全国研究大会が北九州市立大学にて開催されることおよび地域研究会に関し報告があり、了承された。
8. 鎌田理事より第 11 期理事・監事案が提案され承認された。合わせて総会での第 11 期理事・監事案の審議手続き方法に関して報告があった。
9. 花井理事より 2019 年度入会者 4 名、2018 年度退会者計 7 名に関し報告がなされ、了承された。
10. 第 11 期理事会への申し送り事項に関して以下の提案・議論があった。
 - ①石井理事より下記のことが提案され、了承された。
 - <1>国際学会派遣事業費用減額措置について
南出理事より更なる減額あるいは傾斜配分について提案があった。
 - <2>会報の全電子化について
 - <3>優秀論文賞の賞状と記念品に関して(2020 年度以降)
 - ②加藤理事より、全国大会の講演やシンポジウムを掲載した報告書が会員に配布される場合には、学会誌には全国大会の報告を掲載しないことが提案された。
 - ③藤田理事よりフェイスブックへの新刊案内の掲載が提案された。
 - ④鎌田理事より理事会の任期短縮と継続審議が提案された。
 - ⑤鎌田理事より査読者の問題について継続審議が提案された。
 - ⑥堤理事より研究大会発表一部英語化が提案された。

5. 優秀論文賞選考結果報告

第 3 回優秀論文賞選考委員会
委員長 谷内 達

第 3 回優秀論文賞選考委員会では、『オーストラリア研究』第 31 号(2018 年 3 月)及び第 32 号(2019 年 3 月)に掲載された 6 本の論文を対象として、全選考委員 6 名による第一次選考により上位 2 論文を選び、これら 2 論文についての委員長(谷内達)・副委員長(関根政美)が協議した結果、優秀論文賞の授賞対象論文として、松井洋和「オーストラリア労働党政権と国際連合の創設—安全保障理事会非常任理事国選出基準に関する議論を中心に—」を推薦すると結論に至りました。

松井論文は、第二次世界大戦後の国際連合創設におけるオーストラリア労働党政権の行動を、安全保障理事会非常任理事国の選出基準に焦点を絞って論じたものです。一般には、この時のオーストラリア外交は、大国中心の国際政治において中小国家の存在とその利益を守るといった利他的な理想によって支えられていたと言われています。これに対して松井論文では、外交記録文書を駆使して詳細に論ずることによって、当時のオーストラリア外交においては、国際社会における自国の存在感を高めて自国の利益となるような国際組織を作る

という、国益追求の姿勢が一貫して見られたということを示したことが、高く評価されました。

一般に研究のオリジナリティを評価する視点は一つではありません。たとえばこれまでに知られていなかった資料の発見やフィールドワークなどによって新たなデータ・知見を提供することは、オリジナリティを評価する視点として分かりやすいものです。しかし既知の資料に基づいた研究においても、従来の定説・通説とは異なる新たな解釈を提示することは、オリジナリティを評価する視点として尊重されるべきでしょう。松井論文で用いた資料は既知のものです。後者の視点により、そのオリジナリティを高く評価できる研究であると言えます。今後の研究の進展とオーストラリア学会への貢献を期待いたします。

受賞の言葉

松井洋和

この度は第3回優秀論文賞に選出いただき、大変光栄に存じます。拙論は、2016年度に東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻に提出した修士論文を基礎に、修士論文では十分に扱えなかった英米の史料を加えて、投稿論文として執筆したものです。今回私がこのような賞をいただくことができたのは、駒場キャンパスにあり、オーストラリア関係の資料を多く所蔵するアメリカ太平洋地域研究センター並びに Trove やオーストラリア外務貿易省のウェブサイトなど、オーストラリア史に関連する充実したオープンソースによるところが大きいと考えています。遅まきながらここに記してお礼を申し上げると共に、このような研究のインフラがより一層拡充されることを祈念いたします。

拙論では、国連創設に関する先行研究において、しばしば中小国の代表者乃至権利の擁護者として理解されてきたオーストラリアが、国連安全保障理事会の非常任理事国の選出基準という国連創設当時はかなり重視されていたイシューにおいて、他の中小国に対する排他性を孕む主張をしていたことを明らかにしました。このような1940年代のオーストラリア外交に関する一考察が、オーストラリア外交史についての理解を深める一助になれば幸いに思います。

6. オーストラリア学会財務諸表

2018年度決算

貸借対照表

2019年3月31日現在

(単位:円)			
科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	0	0	0
普通預金	1,562,029	3,332,035	△ 1,770,006
郵便振替口座	3,390,468	2,034,830	1,355,638
前払金	0	2,500	△ 2,500
流動資産合計	4,952,497	5,369,365	△ 416,868
資産合計	4,952,497	5,369,365	△ 416,868
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	8,000	11,000	△ 3,000
未払金	15,768	331,560	△ 315,792
流動負債合計	23,768	342,560	△ 318,792
負債の部合計	23,768	342,560	△ 318,792
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産	4,928,729	5,026,805	△ 98,076
正味財産合計	4,928,729	5,026,805	△ 98,076
負債及び正味財産合計	4,952,497	5,369,365	△ 416,868

正味財産増減計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)			
科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	27	37	△ 10
②受取会費	1,365,000	1,496,000	△ 131,000
③雑誌販売収益	8,328	8,328	0
④大会補助残金	0	54,295	△ 54,295
⑤その他	0	0	0
経常収益計	1,373,355	1,558,660	△ 185,305
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	105,000	110,000	△ 5,000
国際学会派遣費用	158,614	79,360	79,254
事業費計	263,614	189,360	74,254
②管理費			
印刷費	503,406	350,616	152,790
会議費	22,120	44,310	△ 22,190
消耗品費	15,884	19,440	△ 3,556
通信費	86,515	95,232	△ 8,717
謝金	12,500	0	12,500
業務委託費	564,892	574,675	△ 9,783
雑費	2,500	2,500	0
学会賞購入品	0	22,745	△ 22,745
管理費計	1,207,817	1,109,518	98,299
経常費用計	1,471,431	1,298,878	172,553
当期経常増減額	△ 98,076	259,782	△ 357,858
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 98,076	259,782	△ 357,858
一般正味財産期首残高	5,026,805	4,767,023	259,782
一般正味財産期末残高	4,928,729	5,026,805	△ 98,076
II. 正味財産期末残高	4,928,729	5,026,805	△ 98,076

収支決算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

(単位:円)			
科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	27	973
②受取会費	1,500,000	1,365,000	135,000
③雑誌販売収入	10,000	8,328	1,672
④大会補助残金	0	0	0
⑤その他	14,000	0	14,000
経常収益計	1,525,000	1,373,355	151,645
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	120,000	105,000	15,000
国際学会派遣費用	200,000	158,614	41,386
事業支出計	320,000	263,614	56,386
②管理費			
印刷費	360,000	503,406	△ 143,406
会議費	50,000	22,120	27,880
消耗品費	20,000	15,884	4,116
通信費	110,000	86,515	23,485
謝金	10,000	12,500	△ 2,500
業務委託費	570,000	564,892	5,108
雑費	10,000	2,500	7,500
学会賞商品購入費	0	0	0
管理支出計	1,130,000	1,207,817	△ 77,817
事業活動支出計	1,450,000	1,471,431	△ 21,431
事業活動収支差額	75,000	△ 98,076	173,076
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	0	0	0
当期収支差額	75,000	△ 98,076	173,076
前期繰越収支差額	5,026,805	5,026,805	0
次期繰越収支差額	5,101,805	4,928,729	173,076

財産目録

2019年3月31日現在

(単位:円)				
貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)				
現金預金	手元保管			0
	普通預金	運転資金として	1,562,029	
	新口座		1,562,029	
	郵便振替口座	運転資金として	3,390,468	
	郵便振替口座		3,390,468	
流動資産合計			4,952,497	
資産合計			4,952,497	
(流動負債)				
未払金			15,768	
前受会費収入		翌事業年度会費	8,000	
流動負債合計			23,768	
負債合計			23,768	
正味財産			4,928,729	

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をしないものとみなした。

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。

2019年 月 日

(印)

(印)

2019年度予算

オーストラリア学会 2019年度収支予算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位:円)			
科目	予算額	前年度予算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,000	0
②受取会費・入会金	1,400,000	1,500,000	△ 100,000
③雑誌販売収入	10,000	10,000	0
④その他	14,000	14,000	0
経常収益計	1,425,000	1,525,000	△ 100,000
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	120,000	120,000	0
国際学会派遣事業費用*	140,000	200,000	△ 60,000
事業支出計	260,000	320,000	△ 60,000
②管理費			
印刷費	400,000	360,000	40,000
会議費	50,000	50,000	0
消耗品費	20,000	20,000	0
通信費	100,000	110,000	△ 10,000
謝金	10,000	10,000	0
業務委託費	570,000	570,000	0
学会賞商品購入費	0	0	0
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,160,000	1,130,000	30,000
事業活動支出計	1,420,000	1,450,000	△ 30,000
事業活動収支差額	5,000	75,000	△ 70,000
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	0	0	0
当期収支差額	5,000	75,000	△ 70,000
前期繰越収支差額	4,928,729	5,026,805	△ 98,076
次期繰越収支差額	4,933,729	5,101,805	△ 168,076

*海外学術大会参加助成制度細則(2017年6月18日総会承認)により、助成総額は年間最大30万円と定められている。

全国研究大会 一般個別研究報告申し込み延長のお知らせ

オーストラリア学会 2020年度総会・全国研究大会は、6月13日(土)・14日(日)の両日に、北九州市立大学(北方キャンパス)にて開催予定です。個別報告の発表を希望される会員は、こちらの [Web フォーム](#) に必要事項を明記の上、2020年1月19日までにお申し込みください

7. 第28回地域研究会（関西例会）報告

南出眞助（追手門学院大学）

2019年4月20日（土）14：00～17：00 追手門学院大学にて、共通テーマを「オーストラリア短期留学／スタディーツアーの教育効果と問題点」とし、4大学から実践例を紹介してもらい討議した。発表は①原めぐみ（追手門学院大学）「ブリズベンへの語学留学」、②馬渕仁（大阪女学院大学）「メルボルンへの語学留学」、③友永雄吾（龍谷大学）「メルボルンへのスタディーツアー」、④田上真由美（武庫川女子大学）「アデレードへの語学留学」である。それぞれが、実施時期・期間・費用負担、受け入れ大学とプログラム、対象学生（学年・クラス）と選考方法、リスク対応システム、カリキュラム・マップでの位置づけ、教育効果の可視化など多岐にわたる内容であり、趣旨にうたっていた「自慢話ではなく苦労話」が噴出する、熱い議論となった。とりわけスタディーツアーでは、引率教員と地元側との個人的な信頼関係に頼るところが大きく、他の教員では代替できない負担の大きさや組織的運営としての脆弱性について、あらためて認識が共有された。

8. 第29回地域研究会（関西例会）のお知らせ

※会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2019年11月30日（土）14:00～17:00

会場：追手門学院大学 総持寺キャンパス 5階 A543 教室

住所：〒567-0013 茨木市太田東芝町1-1（従来の安威キャンパスではありません）

*追手門学院大学アクセス <https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access.html>

交通：JR 総持寺駅前から近鉄バス 70/73 系統「花園東和苑」行き 13：41 発、または阪急茨木市駅西口② 番乗り場から同系統バス 13：32 発が便利です。いずれも「追大総持寺キャンパス前」下車。なお JR 総持寺は普通のみ停車です。ご注意ください。

連絡先：追手門学院大学国際教養学部 南出眞助 minamide@otemon.ac.jp

懇親会：終了後に JR 茨木駅周辺（予定）で懇親会を開催しますので、参加希望者は必ず上記南出までメールをください。

<共通テーマ：オーストラリア・ニュージーランドの児童福祉と保育政策>

発表①「ニュージーランドにおける子どもの「望ましい生活」の保障と虐待児童への支援」

栗山直子（追手門学院大学）

ニュージーランドの児童福祉では、祖父母をはじめとする親族ネットワークが重視されている。これは子どもにとって財産であり、そのなかで文化的背景が尊重されると考えられている。ニュージーランドにおける親族里親による児童養護の現状について報告する。

発表②「オーストラリアにおける保育の質評価システムと小学校教育への接続」

平野知見（京都文科大学）

近年のオーストラリアにおける保育・教育施策を中心とした動向、および保育の質向上のための「質の枠組み」「質の基準」について検討し、オーストラリアの保育の評価と課題について考察する。また小学校教育への接続に関するオーストラリアの取り組みから示唆を受ける点を探る。

9. 第14回地域研究会（関東例会）のお知らせ

*会員以外の方も参加できます。入場無料。

日時：2019年11月9日（土）15：00～17：00

会場：東京大学駒場キャンパス 18号館コラボレーションルーム1

https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_17_j.html

連絡先：神奈川大学経営学部 杉田弘也 ft160194zv@kanagawa-u.ac.jp

テーマ：米中対立の中のオーストラリア外交

講演者：デイヴィッド・ロウ東京大学 CPAS 客員教授（ディーキン大学）

アジア・太平洋地域での覇権を競う米中超大国には生まれたミドル・パワー、オーストラリア。外交・安全保障に関しては、アンザス条約による米国との同盟関係に依存する一方、経済・貿易では中国への依存を深めてきました。中国が米国に代わって地域での覇権を確立しようとする現在、オーストラリアの安全保障政策と経済政策は果たして両立しえるのか、オーストラリア外交史の第一人者であるロウ教授から、歴史的な背景も踏まえお話ししていただきます。

使用言語：英語

10. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり 4 月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば 2019 年 10 月に年会費を納入しても、2018 年度未払いの場合、それは 2018 年度の会費となります。すなわち、2019 年度は未納ということになります。また 2017、2018 年度未払いの場合、2017 年度分の会費納入になります。

<2019 年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2019 年度を含め最多 3 年）を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当あてまでお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在 2019 年 3 月発行、第 32 号）までをお送りしております。事務局では 3 年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

11. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報を電子化しています。ただし、学会直前号は他の配布物と併せ紙媒体での発行を当分の間継続します。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせについては「マイページ」に登録されています電子メール宛てとなります。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

12. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿はいつでも受け付けております。2019 年 1 月 5 日付で投稿要領を改訂しました。改訂版の投稿要領・投稿先はウェブサイトをご参照ください。またこの改訂に合わせて投稿申込書も新しくなりました。こちらもウェブサイトからダウンロードしてください。2021 年 3 月刊行予定の第 34 号の投稿は 2020 年 8 月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・塩原良和 (shiobara@law.keio.ac.jp) までお問い合わせください

第 12 号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは 2019 年 10 月 30 日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 003-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <http://australianstudies.jp/publish/index.html>

【諸届出／連絡先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当
TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

【オーストラリア学会事務局】

〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1-1 獨協大学外国語学部 永野隆行研究室気付
TEL : 048-943-1242 Email : tnagano@dokkvo.ac.jp
会費振込先 : 00190 - 3 - 157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 藤岡伸明 (静岡大学) / 編集協力 : 小野塚和人 (神田外国語大学)]